



体験活動を通して、自信がつく！ 自己肯定感、自己有用感が育つ！

南帷子小学校長 竹内 久美子

10月22日（金）、5・6年生の運動会を行いました。多くの保護者の方に参観いただき、ありがとうございました。

閉会式の校長の話。私は、朝礼台に上がりました。5・6年生の子どもたちの視線が、私に集まります。「先生、僕たち・私たちは、精一杯頑張りましたよ！」「校長先生は、どんな話をしてくれませんか？」こんな思いが、視線と一緒に私に向けられているように思いました。そんな子どもたちの誇らしげな表情に、ぐっと感動の涙が込み上げてきました。



<校長の話の概要>

高学年運動会、素晴らしかった。感動した。その理由は、たくさんあるけれど、3つに絞って話します。

- 1 団体種目では、どの子も全力を出し切っていた。3位や4位でたすきがつながれても、諦めなかった。アンカーも最後まで走り切った。全力を出し切る姿は、とてもカッコよかった。
- 2 「南帷っ子ソーラン」は、少ない練習回数で、よくここまで踊り切った。迫力ある最高の踊りで、伝統の「ソーラン」を引き継ぎ、伝えようとする気持ちまで伝わってきた。
- 3 運動会までの準備の期間が短かったのに、見事に、自分たちの力で運動会をつくり上げた。先生たちの指示がなくても、開会式から閉会式まで、入場から退場まで、自分たちで動く姿が見事だった。

運動会後の子どもたちの動きも素晴らしかったです。「係の仕事がうまくいったよよかったね。」と仲間と安堵しながら語っている姿、器具や放送機器などを進んで片付ける姿、「この後は、～でいいですか。」と自分たちで先の動きを考えて先生に確認する姿など。一人一人の顔が自信に満ち溢れ、大きく成長したように見えました。

運動会を通して、全力を出し切ること、仲間と力を合わせることの素晴らしさを体感できました。自分も仲間と一緒に頑張れるよさがあることが分かりました。係の仕事などを通して、貢献する喜びを味わいました。学級や学年の仲間の良さにも気付きました。だから、運動会後の一人一人の表情が誇らしげに見えたのだと思います。

11月2日（火）に、1・2年生、3・4年生の運動会を行います。今年度の運動会は、各学年部で行うことになりましたが、6年生がリモート結団式やリモート閉会式を計画し、「赤団・白団の気持ちを1つにして頑張ろう！」と心がつながらる運動会にしてくれています。このようにアイデアを出して工夫する姿も、よい経験です。

各学年、運動会以外にも校外学習等の活動も行っています。様々な体験活動を通して、自分のよさに気付いて自分を好きになれる「自己肯定感」、仲間のために活躍できる喜びを味わえる「自己有用感」を育て、一人一人の心が、ますます豊かになるよう、認め励ましていきたいと思っています。